



海、その向こうに…

河替 諒子 Akiko KAWAGAE 早良区南庄

「アンニョイケセヨ、カムサハムニダ。」
家から自転車で五分。今、私の目前には海が
広がっています。この海を見つめていると、
なぜか私は、ある少女の笑顔を思い出します。
彼女の名前は「そんよん」韓国人です。そし
て、私の大切な友達です。

三年前、私はこの日本でそんよんと出会
いました。彼女は韓国の大使として、そして私
は日本の大使として。とても明るく、日本語
が上手で、何にでも積極的にチャレンジする。
そんなそんよんと私は、すぐに友達になる事
ができました。しかし、楽しい時間はすぐに
過ぎ、そんよんが韓国に帰る日、私は空港ま

で彼女を見送りに行きました。飛行機でたつ
たの二時間。福岡からは北海道よりも近い韓
国です。それなのに彼女が国際線の待合室に
いた事が、私に初めてそんよんとの国境を意
識させました。「遠いんだ。」そう思うと涙が
ぼろぼろこぼれてきました。そんよんも顔を
涙でぬらして、私に力一杯抱きついてきまし
た。私はやつとのことで、

「アンニョイケセヨ、カムサハムニダ。」
と言う事ができました。「さようなら、あり
がとう」たったこれだけの言葉でしたが、絶
対に韓国語で伝えようと決めていた、私の本
当の気持ちでした。日本語だけで話していた
私が、初めてそんよんのために覚えた韓国語
です。そんよんはとても嬉しそうな笑顔で、
「ありがとう。」とだけ言い、帰っていきまし
た。

私は、目の前に限りなく広がるこの青い海
を見ていると、韓国という国を、私の大切な
友達を、とても近くに感じます。だから私は、
この海が好きです。この海がある福岡が、
大好きです。これから先、そんよんに会いた
くなったら、この大好きな海を見にこようと
思います。

海、その向こうに、大切な友達が見える。



ひとつの国際交流をきっかけにした心のひろがり。こ
のエッセーは素直に生き生きと描いている。そしてその思
いや言葉が国境を越えて海を渡る姿が見えてきた。海を通
して国際視察ができるという希望を感じた。

（通訳委員 今村 洋子）